NEWS LETTER

株式会社　ホロスプランニング

2026
5月号

HOLOS Planning
Part of HOWDEN

オフィシャルインフォメーション

【リニューアルのお知らせ】８年ぶりにパンフレットを刷新しました

このたび当社では、約８年ぶりにパンフレットを刷新いたしました。2018 年のリニューアル以降、多くのお客様に手に取っていただいたパンフレットですが、昨今の社会環境の変化や、お客様が求める価値観の多様化にあわせ、当社も新たな体制へと進化を続けております。
今回の刷新では、これまで大切にしてきた私たちの「変わらない想い」をより明確にし、変化する時代の中でお客様に確かな安心をお届けするため、デザインと掲載情報を一新いたしました。具体的には、次の点に注力して構成を見直しております。

私たちの「現在地」をより正確に

グループとしての成長や実績、事業構造を整理し、いまのホロスプランニングを客観的なデータとともに分かりやすくお伝えします。

「将来設計士 ®」としての決意

私たちが提供する専門性と、お客様の人生に寄り添う姿勢を、より直感的にご理解いただける内容にしました。

時代は変わっても、想いは「変わらない」

「May I HOLOS you?」
あなたらしい素敵な「活き方」を応援する。

この根幹にある想いは、これからも決して変わりません。新しいパンフレットは、単なる会社案内ではなく、私たちがこれからもお客様の人生のパートナーであり続けるという「決意表明」でもあります。
今後、面談やご相談の際にご案内させていただきますので、ぜひ一度、手に取ってご覧いただけますと幸いです。
これからも、あなたらしい素敵な「活き方」を全力で応援してまいります。

ライフコラム

京都の人は本音を言わない？

ホロスプランニングの本社がある京都。
よく耳にするのが「京都の人は、本音を言わない（建前ばかり）」というお話です。
「ぶぶ漬け（お茶漬け）でもどうどす？」が、実は「そろそろお引き取りを…」という合図。そんな話を聞くと、どこか裏があって怖い、と感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、この文化を単なる「遠回し」と捉えると、その本質を見誤る気がいたします。
こうした独特の言い回しは、単なる性格や文化の違いではなく、千年以上にわたる都の歴史が生んだ「生きる知恵」ともいえるのです。かつての京都は、公家や武士、商人、職人など、さまざまな階層の人々がひしめき合って共存する場でした。その中で、直接的な物言いは角が立ち、思わぬ争いを招く原因になりかねませんでした。
また、京都は非常に狭い社会であり、同じ町内や商圏で人間関係が何代も長く続く傾向がありました。今日の相手が明日は味方にも、あるいは敵にもなる可能性がある。だからこそ、表立って対立を生むような表現を避け、婉曲に、しかし確実に意思を伝える文化が根付いていきました。これは曖昧さではなく、この街が長い時間をかけて磨いてきた距離の取り方なのかもしれません。

……と、ここまで京都の美学を熱く語ってまいりましたが。先日、京都人の知人にこの話を意気揚々と披露したところ、「……。えらい難しいこと考えはるんですなぁ」と、にっこり微笑まれました。
これが「深い考察ですね」という褒め言葉なのか、「考えすぎや、ややこしい人やな」という呆れ顔なのか。
その正体（本音）を突き止めようとせず、「おおきに」とだけ受け取っておくのが、やはり一番、お後がよろしいようです。

ちょっと一息。ビジネス小話

直感の正体と「データの罠」

ビジネスの決断を迫られたとき、「データに基づく客観的な判断」と「経験に裏打ちされた直感」、どちらを信じるべきか迷うことはありませんか？

一般的には「エビデンス（証拠）」が重視される時代ですが、実はデータには大きな落とし穴があります。それは、データは常に「過去の影」であるという点です。市場が激変する局面では、過去の正解が未来の足かせになることも少なくありません。一方で、あやふやに見える「直感」には、面白い科学的背景があります。

将棋のプロ棋士が瞬時に次の一手を見出すとき、脳内では過去数万局のパターンが高速で照合されていると言われています。心理学ではこれを「適応的無意識」と呼び、論理的な思考よりも速く、正確に本質を捉えることがあるとされています。

つまり、データは「失敗しないための守り」（再現性・効率化）直感は「勝機を逃さないための攻め」（変化への対応・新規性）に強いという特性があります。あのスティーブ・ジョブズも「最も重要なのは、自分の心と直感に従う勇気を持つことだ」という言葉を残していますが、これは単なる勘ではなく、膨大な試行錯誤の結果、脳が導き出した「超高速の計算結果」を信じろという意味かもしれません。既存業務のブラッシュアップには「データ」を、前例のない挑戦や「違和感」を感じる場面では、ご自身の「直感」を起点にしてみる。この二刀流を使い分けることで、判断の精度とスピードは飛躍的に向上します。「なんとなく気になる」というその感覚、実はあなたの脳が導き出した最新の分析結果かもしれません。

知ってるようで知らない 保険のハテナ？

Q 入院日数って昔より短くなってるって本当？

A 厚生労働省が 3 年に 1 度おこなっている患者調査では、退院患者の平均在院日数は、1984 年の **40.9 日**から 2023 年の **28.4 日**と **39 年で 12.5 日短くなっています。**

医療技術が進歩して長期入院が不要になったりしていること等が影響して、短縮傾向が続いています。
世の中の変化に伴い、保険の前提や常識も少しずつ変わっていきます。そのため、現在の医療環境やライフスタイルに合わせて、保障内容を定期的にアップデートしていくことが大切ですね。

このニュースレターは、ホロスプランニングが配信している
公式メールマガジンの内容を転載したものです。

ホロスプランニングでは、「お金・保険・健康」などの暮らしに役立つ情報や、当社の取り組みをご紹介するメールマガジンを配信しています。ご登録いただくと、このニュースレターの内容を毎月メールでお受け取りいただけます。ぜひ QR コードからメルマガ登録をご利用ください。

メルマガ登録はこちら

発行　株式会社ホロスプランニング
〒604-8152　京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町
659 番地 烏丸中央ビル 4 階
TEL：075-222-6700
FAX：075-222-2070
HOLOS Planning
Part of HOWDEN

HPH 260430-003-01